

(火)

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立成人病センター
事務局 河村 川畑
電話番号：06-6972-1181（内線2403）

点滴バッグに穴が開いていたことが判明したことのご報告

1 事案の概要

平成28年11月21日(月) 正午頃、大阪府立成人病センターの9階南病棟において、患者様へ投与中の点滴バッグから水滴が落ちているのを看護師が発見し、確認したところ小さな穴が開いていることが判明しました。患者様、ご家族様には、主治医から経過をご説明するとともに、謝罪させていただきました。なお、現時点で、患者様の様子が変わるところはなく、本件による医学的な影響は見られません。

また、本日11月22日(火)午前10時頃、8階北病棟において、投薬準備のため作業台に置いていた点滴バッグから薬液が洩れているのを看護師が発見し、確認したところ、穴は見当たらず、点滴バッグの注入口あたりから薬液が漏れ出ていることが判明しました。投与前に判明したため患者様への影響はありませんでした。

なお、既に両件とも東成警察署に通報しております。

他施設での類似事例が報道されている中、薬剤の安全管理には留意してまいりましたが、このような事態を招いたことは安全管理体制が不十分であり、患者様をはじめ不安とご心配をおかけしていることに深くお詫びいたします。今後、全力で再発防止に努めてまいります。

2 経過

(1)11月21日(月)9階南病棟の案件

○11月20日(日)午前11時頃、病棟の看護師が薬剤カートの鍵を開錠し、薬剤確認等を行い薬剤カートに再収納。

○11月21日(月)午前9時、病棟の看護師が詰所内にある薬剤カートから点滴バッグを取り出し、点滴台の上に吊り下げておいた。看護師2名がダブルチェックを実施。その際には異常に気付かなかった。

○同日、12時、病室において患者様へ点滴の投与を開始。

○同日、12時5分、約8mlを投与した時点で、看護師が点滴バッグより水滴の落下を発見。点滴バッグ下部の小さな穴から水滴が出ているのを確認。点滴をすぐに中止した。このとき、看護師の目視確認では点滴バッグ内の薬液は変化はなく、患者様の様子にも変化はなかった。このあと、新しい点滴バッグを準備し、投与を再開。

○同日、15時30分、東成警察署へ通報。

○同日、18時、医療安全担当副院長及び主治医から、患者様、ご家族様に対して経過を説明するとともに謝罪を行った。

⇒本事案発生を受けて全病棟に対し、点滴時の点滴バッグの目視確認、詰所扉の解放厳禁、薬剤カート
の施錠の徹底など対応策を指示。

(2) 11月22日(火)8階北病棟の案件

○11月22日(火)午前9時頃、病棟の看護師が薬剤カートから点滴準備のため点滴バッグを取り出し、作業台に置かれたトレイの中に入れた。

○同日、10時頃、別の看護師が作業台のトレイ内に点滴バッグから薬液が漏れているのを発見。

○確認したところ、穴は見当たらず、点滴バッグの注入口あたりから薬液が漏れ出していることが判明。

○同日、午前11時45分、東成警察署へ通報。

3 当センターの見解

○原因については、製造過程に起因することや内外を含めた人的なものが考えられるので、製造メーカーに同様の事案がないか照会するとともに、併せて警察に通報した。

○薬剤の管理体制の問題としては、薬剤カートから取り出した後の点滴バッグを点滴台に置いたままであったこと、また、薬剤カートの施錠が徹底できていなかったことなど、十分でないことが認められた。

4 再発防止策

○点滴時の点滴バッグの目視確認を徹底する。

○薬剤カートの施錠の徹底を図るとともに、取り出した点滴バッグの一時保管においても施錠可能な専用容器等に入れるなど、薬剤管理の強化を図る。

○病棟詰所に防犯カメラを設置する。

○安全管理に関する研修会を開催し、薬剤管理に対する意識の徹底を図る。